

パラワン島コーラルベイ・ニッケル製錬所およびリオツバ・ニッケル鉱山開発現場周辺地域における水質調査結果・2018年10月(現地調査期間：2018年10月14日)

Table with 5 columns (sites 1-5) and rows for Date, Time, Location, Coordinates, 6-cup test results, pH, and Remarks.

Legend table for water types: 海水 (blue), 井戸水 (pink), 河川水 (yellow), 水溜り (white).

Table with 4 columns: Refinery, Site, 1st Ring Dam, and Stone Quarry Entrance, listing various numbers.

トグボン川の状態と、降水量の概況： 前回の乾季(4月)よりも、川の水の流量は多く、流れが強いものの、以前の雨季と比較すると少なく弱い。採取日の1週間位前から降雨はなく、採取日の前日夜から朝にかけて、同地域で少雨が時々見られた程度(リオツバ村では降雨はなかったとのことだが、タラタック村周辺は少雨あり)。

注：事前に住友金属鉱山に日程を連絡。セキュリティーの理由で、同地域での帯同なしの水採取は不可とのこと。10/14朝〜夕方まで、CBNCのCommunity Relations Officer1名、および、Security staff (GSSI)1名が帯同。また、フィリピン陸軍の情報課報道部1名も帯同。

(平均的海中存在濃度)

Large table comparing measured concentrations (ug/L) for various elements (Cr, Ni, Zn, B, Mn, Cu, As, Se, Cd, Pb, Hg, Fe, Co, U, Na, Ca) across sites 1-5 against environmental standards (mg/L).

<コメント> (大沼淳一：金城学院大学元非常勤講師、中部大学元非常勤講師、元環境調査センター主任研究員)

- 1) 今回は雨季にもかかわらず降水量が少ないことを反映して、六価クロムの基準超過は多くはないが、乾期と比べれば濃度は高く、トグボン川合流点では2日とも基準を超過した。
2) 今回の結果も、改めて六価クロムの発生原因は鉱山エリアおよびプロジェクトエリアにおいて雨水によって溶出されたものであることが確認されたことによる。
3) 住友金属鉱山は、その原料サプライチェーンであるリオツバ鉱山社との共同の責任において、抜本的な汚染対策を早急に講じるべきである。
4) さらに、トグボン川の水質改善にとどまらず、すでに重大な汚染を被って重大な破壊を受けているリオツバ入江のマングロープ生態系の回復のための対策を講じるべきである。
5) ホウ素(B)は、海水由来成分である。
6) ニッケル(Ni)が全ての地点で水道法の管理目標値を大きく超えている。
7) 今回のトグボン川河川水の海水による希釈率を示すために、ナトリウム(Na)とカルシウム(Ca)の測定結果も示した。